

船の時代から鉄道の時代へ

江戸時代から明治時代へと時が移っても、しばらくの間は、船は重要な輸送手段であり続けました。淀川には、新しい時代を告げる船も現れました。石炭の煙をはいて走る最新鋭の客船「外輪蒸気船」です。

しかし、時代の進展と共に、陸上の交通手段が優勢になっていきます。舟や荷車は、汽車、電車、バス、トラック、乗用車など新しい交通手段に取って替わられていきます。



外輪蒸気船

明治の初め頃から第二次大戦頃まで淀川で活躍した。写真の頃は、すでに小舟を連ねて引き上げる仕事をしている

鳥飼の渡し船（昭和初期）

昔からあった鳥飼の渡しは、昭和49年まで運行していた



井路と使われなくなった井路舟



リヤカーで米俵を運ぶ（戦後すぐの頃）



肥桶を積んだ荷車





なつかしい千里丘駅東口



建設中の千里丘駅（昭和12年10月）



昭和3年開設当時の正雀駅ホーム



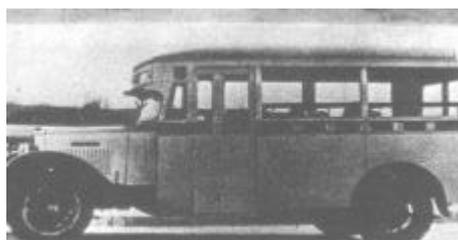
雪の正雀駅（昭和29年）

京阪バス（昭和初期）



婚礼のトラック（昭和34年）

味舌東小学校前。まだ、一面の畑



思い出語り

肥をくみに大阪へ行った舟は、帰るときにはじゅづつなぎになって蒸気船に引っ張ってもらいます。村より少し上流のところできり離して、流されながら岸に着きます。

蒸気船が通れるように淀川の瀬の部分掘り下げたり、浅いところに目印のミオを立てたりするのを請け負っていた「蒸気トラ」と呼ばれる人が村に住んでいました。

子どもの頃、電車や汽車なんてほとんど乗ったことがありません。私も、修学旅行で伊勢参りに行くとき、初めて乗ったのです。

新京阪が通ったとき、学校から「電車見物」に連れていってもらいました。電車は一輛だけで走っていました。急行は二輛でした。

